

香港の若者と「日系服装」～トレンドの相互作用～

兵庫県香港経済交流事務所 所長補佐 ルシアナ・リー

日本のポップカルチャーと香港のファッション

1970年代から1980年代にかけて、香港の若者は日本のファッションから様々な影響を受けるようになってきました。現在も、日本の文化から影響を受けた裏原宿風スタイルやミニマリストスタイルなど、様々な系統のファッションが香港の若者に支持されています。香港では、日本のファッションを総称して「日系服装」と呼んでいます。

香港人の生活文化には、日本のモノやサービスが日常レベルで浸透しています。私自身、子供の頃から家族の影響を受け日本の文化が溢れる環境で育ちました。メインストリームのドラマやACG(アニメ、コミック、ゲーム)にとどまらず、原宿系のファッションやメイド文化といったサブカルチャーにも興味を持ち始め、雑誌やSNSを通して学び、真似するようになりました。

自分らしさへの希求

「日系服装」の最大の魅力は、豊かなバリエーションと包容力の大きさにあると感じています。一般的に優しいミニマリストスタイル、鮮やかで華麗な原宿風、いかついアメカジスタイル、目を引くギャル系、ゴージャスなV系など、自由に創造的な個性とその表現を包容する市場が香港の若者たちの心を掴んでいるのです。

庶民もグルメで、着るものより食べるものを重視する傾向があり、多くの香港人は自分が好きなファッションよりも、他人から変な目で見られないように、周囲に馴染みやすい無難な服を選びがちでした。

ところが、現在のネットとSNSに囲まれたZ世代(Gen Z)の間では、以前よりも大胆に、自分らしいスタイルへの希求が高まっています。そして、私の見るところでは、SNS(InstagramやTikTokなど)でインフルエンサーになって自分だけのファッションを写真や動画で発信している人の約半数以上を「日系服装」が占めています。



香港で開催されている日系非メインストリームブランドのポップアップストア (出所：筆者)

中国本土で欧米系の高級ブランドに人気が高まっているのとは対照的です。

私自身も日本へ旅行すると、服に使うお金が一番多くなります。規模の大きいショッピングモールだけではなく、香港には少ないおしゃれな古着屋巡りも楽しんでいます。

香港市場へ進出する「日系服装」

日本のブランドと言えば、ユニクロやGUなどのリテーリング会社は、香港でもすっかり定着しています。平地面積の狭い香港に、ユニクロだけで30店舗以上もあり、メインストリームとなっています。

さらに、メインストリームではないブランドも、香港市場で活躍し始めています。その中には、日本でもあまり知られていないマイナーなストリート系ブランドやローリータ・ファッションもあり、ポップアップストアは多くの若い香港ファンで賑わっています。

播州織と香港

こうしたトレンドは、兵庫県の地場産業である播州織にとっても、新たなチャンスではないでしょうか。

播州織は戦後、海外市場を開拓し、輸出型産業として発展してきました。その中で香港は、昭和56年に播州織香港見本市が開催されるなど歴史的に播州織の主要な輸出先のひとつであったことから現在もその商流は浸透・定着しており、多くのセレクトショップやローカルな小売店が定期的に輸入しています。

店頭はもとよりオンラインでも販売されており、商品としては、洋服をはじめ、ナプキン、アクセサリ、カバンなどが見られます。

また、同じく兵庫県の地場産業である皮革製品においても、県内企業が香港への輸出拡大に取り組んでいるところです。

香港経済交流事務所の現地職員として、ひよ

うごフィールドパビリオン PRの一環としても、ファッションに敏感な香港の若者視点から見た兵庫県産品の魅力発信に取り組み、さらなる輸出の拡大に向けても努力したいと思います。



播州織を定期的に輸入している香港の生地ショップ (出所：筆者)

ひょうご海外ビジネスセンターは、兵庫県が世界3か所に設置する兵庫県海外事務所と連携して、県内企業の海外ビジネス展開を支援しています。本通信は、各海外事務所から寄せられる現地トピックスをお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】